

基準 1. 建学の精神・大学院音楽研究科の
基本理念及び使命・目的

基準 1. 建学の精神・大学院音楽研究科の基本理念及び使命・目的

1-1. 建学の精神・大学院音楽研究科の基本理念が学内外に示されていること。

(1) 事実の説明(現状)

大阪音楽大学の前身である私立大阪音楽学校(旧称)は、1915(大正4)年10月5日に初代校長・永井幸次により、大阪市南区塩町(現、中央区南船場)に設立された。その後、1926(大正15)年には大阪市東区味原町(現、天王寺区味原本町)に移転、1948(昭和23)年には大阪音楽高等学校、1951(昭和26)年に大阪音楽短期大学が開学した。1954(昭和29)年に、豊能郡庄内町野田(現、豊中市庄内幸町)に移転し現校地となっている。1958(昭和33)年には大阪音楽大学が開学し、同時に大阪音楽高等学校が附属音楽高等学校へと改称した。また翌年の1959(昭和34)年には大阪音楽大学短期大学は大阪音楽大学短期大学部と改称した。附属音楽高等学校は1981(昭和56)年に廃止となった。

1967(昭和42)年には附属音楽幼稚園、大阪音楽大学短期大学部専攻科とともに大阪音楽大学音楽専攻科が開設した。1968(昭和43)年の大学院音楽研究科(以下、大学院と略す)の開設を経て、現在の教育組織体制へと発展してきた。また、創立者の持論である「音楽人は教養が与えられねばならない。教養の深い人の音楽は高雅である」という基本理念を継承している。この精神は本学における教育理念を支え、現在まで受け継がれている。また創立年の10月15日に授業が開始されたことを記念して、10月15日を「創立日」と決めた。創立90周年を迎えて2005年の教授会において、創立者による下記の言葉を建学の精神として再確認し学内外に示してきた。

建学の精神

世界音楽並ニ音楽ニ関連セル諸般ノ藝術ハ之ノ學校ニヨツテ統一サレ
新音楽新歌劇ノ發生地タランコトヲ祈願スルモノナリ

(2) 1-1の自己評価

教授会において建学の精神を再確認する審議を通じて、その意義が深く共有された。また、建学の精神が90年後の今日においても意義を持つとともに、常に新しい使命を喚起するものであることも再認識した。

(3) 1-1の改善・向上方策(将来計画)

今後いっそう建学の精神を学生、教職員および広く社会に向けても明示していきたい。また、碑文の設置などの具現化をはかりたい。

1-2. 大学院音楽研究科の使命・目的が明確に定められ、かつ学内外に周知されていること。

(1) 事実の説明(現状)

1-2-① 建学の精神・大学院の基本理念を踏まえた、大学院の使命、目的が明確に定められているか。

大学院規則第3条第1項において、大学院の使命・目的を明確に定めている。

- 第3条 大学院は広い視野に立って、芸術を修め、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。
2. 大学院は教育水準の向上を図り、前項の目的及び社会的使命を達成するため、本大学院における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う。
 3. 前項の点検及び評価を行うにあたっての項目の認定、実施体制等については別に定める。

1-2-② 大学院の使命・目的が学生及び教職員に周知されているか。

毎年4月に発行される大学院学生便覧、及び教員便覧に大学院規則を掲載している。更に入学式及び新入生ガイダンスにおいて大学院の教育目的及び各専攻・研究室の教育目的・教育内容を学生に周知している。

1-2-③ 大学院の使命・目的が学外に公表されているか。

上述の目的を周知徹底させるべく、本大学院の使命・目的は大学院研究科長による入試ガイダンス、大学院入学試験要項、さらに大学案内及び大学ホームページを通じて学外に公表している。

(2) 1-2の自己評価

大学院の使命・目的は明確に示され、実行されている。入試ガイダンス等により音楽学部学生に大学院の理念・目的・教育への取り組みを説明している。しかし、大学院進学希望者以外の学生には十分に浸透していない状況が見られる。

(3) 1-2の改善・向上方策（将来計画）

学内における周知の方法について音楽学部新入生および3年次編入学生へのガイダンスの実施を検討するなど尚一層の改善がはかられるべきである。

【基準1の自己評価】

建学の精神・大学院の理念および使命・目的は明確に示されている。学校法人ホームページにおける各専攻・各研究室の紹介記事は有意義であるが、各専攻及び研究室の教育目標を定式化するという点では改善の余地がある。

【基準1の改善・向上方策（将来計画）】

大学院全体の使命・目的および教育目標を運営委員会による検討をふまえて定式化するとともに、各専攻、各研究室における人材育成を含む教育目標を明確にし、学内外に公開、周知することが必要である。

学内外へのさらなる周知のためには、学校法人ホームページの大学院ページについての一層の充実が必要である。大学院が行う「マスターズ・コンサート」（大学院2年生協奏曲演奏会：2004年度より「管弦楽による大学院2年生選択発表会」と改称。）に代表される研究成果も、学内外へアピールして行くべきであると考えます。